

所内研修① 「局長講話」「室長講話」

10月7日(水)に第1回所内研修を実施しました。

初めに、知花賢正事務局長を講師に「組合(私たち職場のはなし～市町村行政の一部を担う団体として～)」と題して、一部事務組合である南部広域行政組合の組織と事業内容、市町村負担金と事業経費等を具体的な資料を示しながらお話しいただきました。さらに島尻教育研究所の設立の趣旨やその思いも語られました。

続いて、広域行政組合の一般廃棄物処理施設建設準備室の山城匡室長は、「南部のごみ処理の現状について～南部の心は一つ～」と題して、南部のごみ処理の現状と廃棄物処理の歴史とその時代背景、さらに、最終処分場建設合意に至るまでの経緯、南城市に建設される被覆型最終処分場の環境調査や設計の進捗状況、そして、一元化を目指すゴミ焼却炉のお話しをして下さいました。



写真1 局長を囲んで

【局長講話の概要】

- 1 南部広域行政組合とは
地方自治法284条に基づき昭和56年に設立された一部事務組合(特別地方公共団体)
- 2 組合の組織及び事業等について
 - (1) 地方自治法上の位置づけ
 - (2) 組合の組織
 - (3) 組合の事業
 - ① 一般廃棄物最終処分場の設置及び管理運営
 - ② ごみ処理広域化計画及び施設整備
 - ③ 視聴覚ライブラリーの設置及び管理運営
 - ④ 島尻教育研究所の設置及び管理運営
 - (4) 組合の事業経費
- 3 組合を取り巻く状況と今後の展開
- 4 島尻教育研究所の話し



写真2 室長を囲んで



【室長講話の概要】

- ◇南部地区のごみ処理の現状(DVD)
- ◇廃棄物処理の歴史
- ◇最終処分場建設合意に至るまでの経緯
- ◇ごみ処理施設について
 - 短期計画・・・最終処分場の建設
 - 長期計画・・・次の焼却炉の設立

教育研究員の感想 (研修日誌から)

知花局長の講話は南部広域行政組合の組織についてでした。市町村の様々な役割を担っている施設という事でした。資料の中にあつた他府県の組合の事業は、看護学院や市場など特色ある取り組みが組み込まれていて魅力を感じました。私達が属している教育研究所も10市町村からなっている教育施設で、複数の教師が一度に研究に臨めるとも魅力・特色のあるものだと思います。私は幼稚園教諭ですが、市町村役場職員でもあります。地方行政職の立場から住民と1番近い教員なのではないかと思つています。地域の子供達のために、教師としてもっとよくしたい気持ちをもち続けたいです。そして、局長から“熱い思いで取り組む”姿勢を学びました。

山城室長の講話は南部のごみ処理についてでした。ごみ処理の仕組みを理解するよい機会でした。しかし、私の中で心に残つたのは、“自分達の課題は自分達で”“現在の課題を少しずつ解決していく”“互いに負担を担い、努力を重ねることで努力の結晶が目に見える”という事です。私自身の研究に置き換えて考えることが出来ました。行政職にしろ、私達にしろ1番最初に思ふのは「相手のため」であつて、それがただ「住民」か「子供達」なのかの違いなのだと思います。現場に戻つたときに、幼稚園では幼稚園なりに、ものを大切にしたり、食育を通して食べ物も大切にすることを育つように他職員とも考えていきたいです。

(上原亜矢)

知花局長から「南部広域行政組合について」ご講話いただきました。南部広域行政組合は、一部事務組合であり、市町村の要請を受け事務の一部を処理する役割を担っているとのことでした。組合に入っている市町村同士が財政面などで助け合い仕事を遂行していることで、いろいろなメリットがあるということをお教えいただきました。また、この島尻教育研究所の立ち上げにご尽力頂いたことを知り、感激しました。私が、こうして研究できるのも、知花局長やその他の研究所の立ち上げに携わって下さった方々のおかげなのだとしみじみと感じ、胸がいっぱいになりました。そして、心からありがたいと思いました。

山城室長は、「南部のゴミ処理について」お話し下さいました。「自らのゴミは自らで処理する」という言葉や「当事者意識を持ってほしい」という言葉が心に残りました。現場に戻ったら、子どもたちへの環境教育をしっかりと行おうと心に決めました。また、最終処分場を作るまでの長い道のりを聞いて、大変なご苦労があったことを知りました。10年間も南部の人たちのために戦ってきた山城室長。強い意志を持って頑張ってきたからこそ、大変なことも成し遂げることが出来たのだと感心させられました。最後に山城室長が考案したアイデアあふれるゴミ処理場が完成するのが楽しみです。

知花局長と山城室長の熱意に、私まで胸が熱くなりました。

(比嘉頼子)

知花賢正局長講話では、南部広域行政組合について説明を受けました。今まで、教育研究所以外の人達の顔は知っていましたが、どんな仕事をしているのかという組織なのかまったくわかりませんでした。講話を聞き、地方公共団体が合併する意味や、広域行政組合のよさを知ることができました。また、同じような広域行政組合が県外にも多々あり、その組合が病院や学校の運営にも携わっていることもわかりました。島尻教育研究所の歴史や自分の学校の校長先生がここに在籍していたことも初めて知り、ここで今研修ができるのも様々な縁のおかげだと感謝しています。最後は、合併することで生じる問題について実際に体験したことを話して下さり、考えさせられました。

山城室長講話を聞いて、南部のゴミ処理について、今までゴミは燃やせばよいと思っていましたが、話を聞き、ゴミを燃やす場所、燃やした後の最終処分場など多くの問題を抱えているんだと感じました。家族で倉敷ダムへ行く途中に、大きな古墳みたいな山があり、今振り返ってみるとあれが、ゴミの山だったんだと思いました。自分達で出したゴミを他の地域に処分してもらうのがおかしいと感じはしますが、処分場を作らせたくない住民の気持ちもわからないでもないと思いました。沖縄の基地問題とも少し重なるような気がしました。住民との話し合いや計画を進めていく行政の苦労、努力を知ることができてよかったです。たくさんの人の努力で、今の便利な生活が成り立っていることを教育現場に戻った時に少しでも伝えたいです。

(久高友弥)

知花局長のご講話では、南部広域行政組合が複数の市町村が資金を出し合って設立したことやごみ処理からライブラリー、教育研究所に至るまでの組織や事業内容など詳しく知ることができました。改めて多くの方々を支えられて私たちが生活できていることを感じました。地区の教師のために研究所を設置されたこと、そして、研修の機会を与えて下さったことに感謝しながら、自己研鑽に励んでいきたいと思えます。

山城室長のご講話では、これまで南部地区のごみを中部に埋めていたことや最終処分場建設決定までの大変なご苦労を積み重ねてきたことを知り、驚きました。「自らのごみは自ら処理する」のお言葉に、教師として子ども達に伝えて行かなくてはいけないことは何なのか考えさせられました。ごみについて「自分にできることは何か」を子ども達と一緒に考え、環境教育を実践していきたいです。そして、環境にやさしい人づくりにも努めていきます。

(富名腰由紀)

知花局長には、朝の清掃の時に名前を呼んでもらうととてもとてもうれしかったです。なかなか同じ建物にいますが、お互いに話す時間がほとんどないので、今日は南部広域行政組合がどんなお仕事されているか知ることができました。その中で、島尻教育研究所の設立にも協力され本当に多くの人の協力があつたから今、私が研修できているんだと感じました。改めて半年間の研修を頑張っていこうと思いました。

山城室長の講話を聞いて、私もたまに分別がめんどくさいなと感じることがありました。また、ここ最近は分別も厳しくなっているなと感じていました。でも今日の話聞いて行政の皆さんがこんなにも多くの苦労をなさって、ゴミのことに取り組んでいるのを知ったら、分別はめんどくさいとは言えないと思いました。学校の現場に戻ったら、山城室長が話してくれた熱い思いを生徒に伝えこれからの循環型社会をになう大人になってくれたらいいなと思いました。

(波照間生子)